

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	白石町立有明東小学校
1 前年度 評価結果の概要	保護者アンケート、児童アンケート、それに教職員アンケート等をもとに取りまとめた結果、全体的には良好な評価結果であった。学力向上に向けた取組では、学力向上コーディネーターが中心となり、全国・県学習状況調査結果の分析から課題の把握、対応策の検討、そして、全職員共通理解のもと共通実践に取り組んできた。教職員アンケートで回答した『児童に「読む力」「書く力」「考える力」をつけるために工夫を凝らした授業に取組む』という項目がわずかに目標値に届かなかったので、次年度に向けての課題とした。児童の挨拶については、よく挨拶ができている児童、よく挨拶ができていない児童、時間帯、場所等については、児童の実態を探りながら家庭や地域と連携した指導を行っていきたい。保護者や地域の本校教育に対する関心は高く、授業参観や学校行事等への参加が多い。また、コミュニティ・スクール実践校としても地域の教育力を様々な形で活用させていただいてきている。さらに、家庭・地域との連携を深めながら、本校教育を充実させる取り組みを継続していきたい。
2 学校教育目標	本校の歴史と伝統を重んじ、連綿と受け継がれてきた「誠」の教育と、たくましい開拓・干拓精神の維持高揚に努めると共に知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな有明東小学校の子どもを育てる。

3 本年度の重点目標	①学力の向上（教職員の資質向上を含む） ②心の教育の推進 ③業務改善の推進と情報発信・地域との連携推進（学校運営協議会との連携推進）
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策シートに示したマイプラン(「読む力」「書く力」「考える力」の育成)の成果指標(4段階)の平均値が3.5以上になる。	・「読む力」「書く力」「考える力」の育成を意識し、児童の実態や学年の発達段階に応じた授業展開を工夫する。 ・週に1回、朝の時間を使って「読む力」「書く力」「考える力」の育成を目指した取組を行う。また、隔週1回、朝の時間を使って基礎的・基本的な内容の定着を図る。	・		・				学力向上コーディネーター 研究主任	
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学級の友達との話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童が90%以上	・主体的、対話的で深い学びとなるような授業展開を意識し、課題設定や発問を工夫する。 ・安心して発言できる支持的風土を醸成するために、様々な機会を捉えて指導に取り組む。	・		・				学力向上コーディネーター 研究主任	
●心の教育	●挨拶の奨励	○いつでも、どこでも、気持ちのよいあいさつができる児童の割合を90%以上にする。	・定期的に地区ごとの挨拶運動を実施する。 ・定期的に挨拶について振り返る時間を設けることで、挨拶への意識を高める。		・		・		・	特別活動部	
	●いじめの実態把握(早期発見、早期対応体制の充実)	○「いじめをしている」「いじめを受けている」児童0を継続する。	・定期的に調査(職員・児童・保護者対象)を行い、児童の実態を掴む。 ・児童理解連絡会を定期的に設ける。 ・SCとの連携を図る。		・		・		・	特別活動部	
	◎目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の取り組み	◎「自他の良さを認め合い、共に高め合う児童の育成」を研究主題とした校内研究のまとめ段階におけるアンケートで自己肯定感の高まり具合について尋ねる項目において、「高まった」あるいは「まあまあ高まった」と答える児童が85%にする。	・研究授業を通して「自他の良さを認め合い、共に高め合う児童」を育成する授業の在り方についての研修を深める。また、研修したことを日常の授業にも活かしていくように努める。 ・日常の学習や生活場面において、児童の良さを見つけ、認めながら指導・支援にあたる。		・		・		・	研究主任 教務主任	
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○テレビやゲーム、ネットなどのメディア機器を使用する際の約束を家庭で決め、守っている児童の割合を80%にする。	・連絡帳などに、チェック項目を作成し、児童に意識付けをさせる。 ・学級通信や保健便りで、メディア依存について啓発する。 ・保護者向けに、外部講師を呼んで、メディア依存についての講話を行う。		・		・		・	生活指導部	
	●安全に関する資質・能力の育成	○廊下右側歩行率を90%以上にする。 ○道路で飛び出さず、左右確認をする児童を95%以上にする。	・定期的に調査を行い(児童、職員、保護者)、意識の向上と習慣化を図る。 ・月の生活目標との関連を図る。 ・交通安全教室を実施する。 ・地区児童会や終業式等で啓発をする。 ・最上級生である6年生が模範となるように、指導する。		・		・		・	生活指導部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務の効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校等時間の上限(月45時間、年間360時間)を遵守する。	・定時退勤日を設定する。(毎週金曜日) ・長期休業中に学校完全休業日を設定する。		・		・		・	教頭	
	○業務内容の情報共有化	○職員間で業務内容の情報共有を図り、効率的な業務遂行の取り組みを推進する。	・校内の共有フォルダを整理し、業務に必要なデータ蓄積と共有を行い、効果的に活用することで効率的に業務を行う。		・		・		・	教頭	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○特別支援教育の充実	○職員の専門性と意識の向上	○特別な支援の必要な児童について、全職員で共通理解を図り、適切な支援を行う。	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・ケース会議を開催し、情報を共有する。 ・「個別の指導計画」「個別的教育支援計画」の活用を図る。 ・「かけはしノート」を活用して保護者との連携を図る。 ・SAの先生と連携して支援していく。		・		・		・	特別支援教育担当	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------